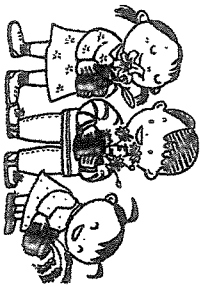




いすみのひろば



『父なる神』 スタイによる福音書 11:25~27



教会学校の礼拝では「使徒信条」のお話を聞いています。使徒信条は聖書の教えをギュッと小さくまとめたのです。だから、その小さな使徒信条の中には聖書のお教えが、そして大きな神さまの恵みがいっぱい詰まっています。主の祈りみたい暗唱できるよう、ぜひ覚えてください。

使徒信条では、まず「わたしは神さまを、『天の父』と信じます」と言い表しています。

神さまを「天の父」と呼べるなんて、こんなにうれしくて、すてきなことはありません。でも、神さまが天の父って、どういうことなのでしょう？ それに、なんでそれがうれしいことなのでしょう？

きょうだいがたくさんいる人のお話を聞いたことがあります。その人のお母さんに「子どもの中で、だれがいちばん好き？」ときいたそうです。自分が一番下なので、いちばん小さな自分がいちばんかわいくて、いちばん好きだよと言ってもらえると聞いていたら、「どの子も、一人ひとりちがっていて、かけがえない子どもたちで、だからどの子のことでもいちばん好き」という返事が返ってきたそうです。

そのお母さんはどの子どもたちのことも、生まれた時からのことをいろいろと覚えていて、病気になった時のこと、イタズラした時のこと、うれしかった出来事など、よくお話ししてくれました。お母さんは、みんなのことを本当に愛しているから一人ひとりのことをいつもそばでよく見ていて、ちゃんと覚えていてくれるのです。

使徒信条では、神さまを「天の父」と言い表します。神さまが天の父ということとはとてもうれしいことで、とてもすてきなことです。なぜなら世界には大ぜいの人がいます。ひとりとして同じ人はいません。得意なこともちがえば、背の高さも、性格も、みんな違います。でも神さまは、どの人のことも「いちばん大好きだ」と言ってくれます。神さまは『天の父』だからです。神さまを「天の父」と信じるということは、神さまがわたしたちのことを愛していただくさ、いつもそばにいて、大切な宝物として見守ってくれているということです。神さまが天の父なら、わたしたちは、「神さまの子どもたち」なのです。なんとうれしいことでしょう。

どうかみんなが、神さまを「天の父」と心から信じていくことができますように。